

学びのデザインシート（本時）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【作業学習】

1. 対象 特別支援学校 高等部木工芸班

2. 単元名 「お客様が喜ぶ製品を作ろう～受注生産に向けて～」（全 20 時間）

3. 単元の目標

知識及び技能	①自分の使う機械や資材、道具を安全に扱って作業できる。 ②自分の担当する工程が分かり、手順どおりに作業できる。
思考力、判断力、表現力等	①規格どおりに作るために各工程のポイントを理解して、工夫して作業できる。 ②検品表の進捗状況から優先すべき工程を考え、作業できる。 ③時間内に目標数の達成に向けて作業できる。
学びに向かう力、人間性等	①担当する作業に進んで取り組むことができる。 ②教師や同じ工程の生徒と声を掛け合って作業できる。

4. 言語活動

- ・教師や生徒間で報告、依頼をしたり、良否判断をして製品作りに取り組んだりすることができる。
- ・製品を納品するときには、直接お客様とやり取りをする場面を設定することで、製品の特徴や使い方など伝えることができる。

5. 本時の目標

- ・担当する工程が分かり、安全に作業に取り組むことができる。〈知識・技能〉
- ・作業の効率や良品判断など工夫して作業に取り組むことができる。〈思考・判断・表現〉
- ・任された作業に進んで取り組もうとして。〈主体的に学習に取り組む態度〉

6. 授業展開

解決したい課題や問い

- ・「お客様に喜んでもらうために、どのようなことに気を付けて製品作りをしますか。」

考えるための材料

①担当する工程を考えるための工程表

②誰が担当したのか、完成まで全ての工程ができたのか分かる検品表

想定される活動

- ①工程表を使い、作業途中の製品や滞っている工程などの進捗状況から、担当する工程を考えて、決めることができる。
- ②検品表を使い、誰が担当したのか、完成まで全ての工程ができたのか把握して作業することができる。
受注分ある検品表の残りの枚数から制作しなければならない個数を把握して、作業することができる。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

- ・コースターグループ、手筒花火グループに分かれて製品作りに取り組む。各グループ、分業制にすることで、担当工程に責任をもって取り組み、報告や依頼をととして生徒と協力して一つの製品を作ることができる。
- ・各工程ポイントを理解して取り組むことで、「この部分はもう少し磨いたほうがいいです。」「バリの取り忘れがあります。」「すき間なく接着できています。」などと生徒間で良否判断をして、規格どおりに製品を作ることができる。
- ・お客様からのアンケート結果から、改善点やお客様のニーズ、新製品に向けてのヒントを得ることができる。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・「不良のない製品を作ることができた。」
- ・「お客様にデザインが良いと喜んでもらえた。」
- ・「お客様の受注に合った製品を作ることができた。」
- ・「より買ってもらえる製品は何か。新しい製品開発に向け改善していこう。」